

代替大会

2020.6.19

梁川高校には、バドミントン部はない。だが、本校校長の役割の一つに、県北高体連バドミントン専門部部会長というものがある。バドミントンの県北大会の際に、開会式でのあいさつ、優勝杯返還、閉会式での表彰や講評などを行う役である。

昨年度はこれでよかった。しかし、今年度は違った。まず5月の県北高体連大会の中止を決めた。その後、代替大会について検討、協議してきた。各競技ごとに対応は様々である。県大会のみ開催、地区大会のみ開催、大会を開催しないなどに分かれる中、陸上とバドミントンは地区大会と県大会の開催となった。

先日、顧問会議があった。会議は1時間50分に及んだ。当然である。相談すべきこと、決めるべきことがたくさんある。バドミントンの県北大会は、以下のように実施することとなった。

開会式と閉会式は行わない。試合前の諸注意は放送で行う。学校対抗戦の出場者を減らした。個人戦の出場枠も減らした。それでも、各学校の3年生が全員出場できる出場枠は確保してある。また、無観客試合とするが、体育館へは出場登録した選手のみ入場可能とした。その結果、一つの学校からは最大で男子14名、女子14名の参加となる。

県大会への出場権は、学校対抗戦が4チーム、個人戦がダブルス4ペア、シングルス4名である。このことから、組み合わせをつくる際のシードについても協議した。

最重要課題である感染防止対策については、無観客に加えて、試合前後の握手、試合中等のハイタッチの禁止、ギャラリーでは、前後左右の席を2つ空けて着席、ギャラリー・ベンチでの声を出しての応援禁止、コート外でのマスク着用厳守などを行うこととした。また、アリーナの出入り口は開放状態とする。アルコール消毒などの感染防止対策は各チームごとに行う。各コートに設置されるベンチ以外の場所には座らない。試合当日の朝の検温、体調が優れない場合の連絡などは当然行うことになる。

顧問会議での部会長あいさつでは、各学校の顧問の先生方に次の話をさせていただいた。

先生方には、通常の大会運営に加えて感染症対策等でご苦勞をおかけすることになります。本日は、県北大会の運営について詳細な点まで確認していただいたり、ご意見を出していただいたりすることで、できる限り万全の対策をとった上での大会となるようにしたいと思います。また、各学校の3年生にとって、ぜひとも意義のある大会にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。お世話になります。

3年生にとって意義のある大会、それが各関係団体等のご尽力をいただき、代替大会を開催することにした第一のねらいである。7月18日(土)・19日(日)の2日間、会場となるあづま総合体育館に、各学校からどのくらいの3年生が出場してくれるかは未知数である。出場しないと決めた3年生は、それはそれで自分なりのけじめをつけたということであろう。出場することにした3年生には、1試合1試合、様々な思いを胸に戦ってほしい。